

進路通信



昨日に学び、今日に生き、明日に希望を。
大事なのは「？」の気持ちを忘れないこと。
アルベルト・アインシュタイン（ドイツ・物理学者）

2021.4.26 第1号

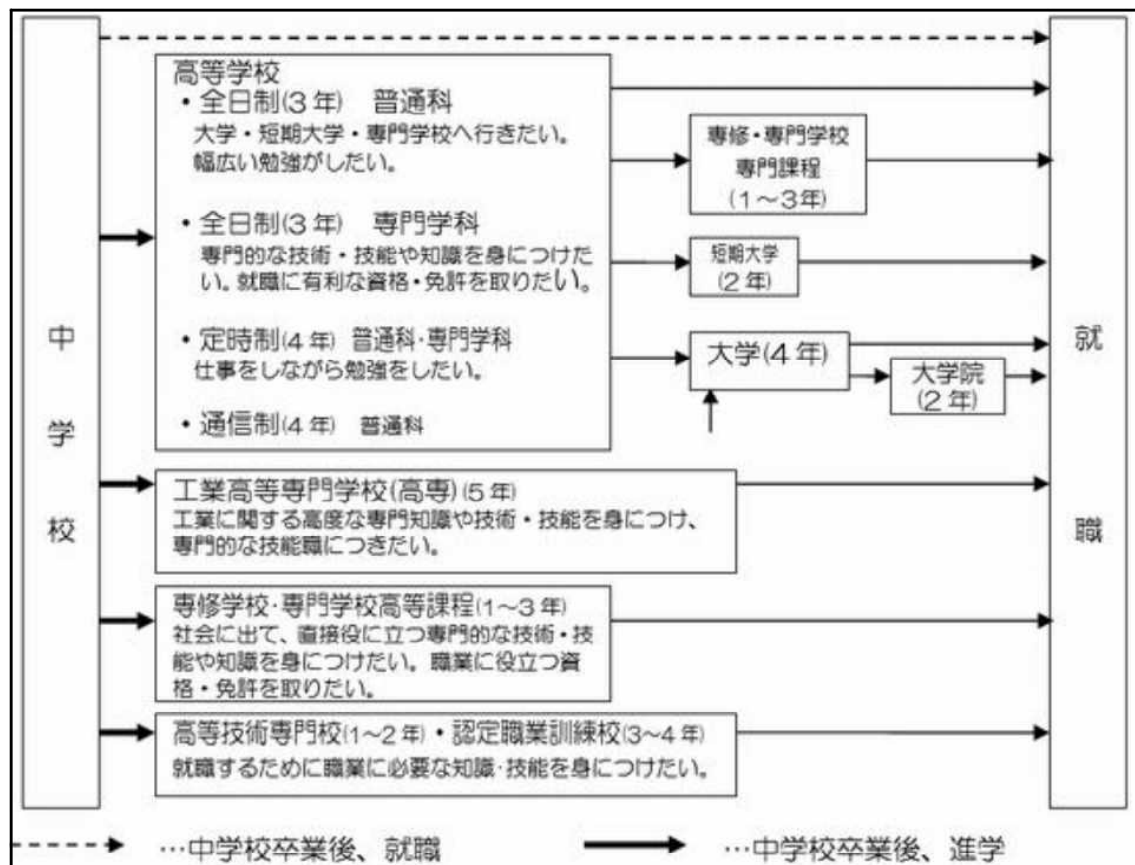
この進路だよりは、東三国中の3年生の生徒のみなさんと保護者の方々に向けて発行します。将来に向けて、どのような進路を選んでいくのか参考にしてもらうための一助になるよう不定期に発行しています。

卒業後の進路選択について

3年生としての生活が始まり、3週間ほどが経ちましたが、どのように過ごしていますか。今年は中学校生活最後の年です。誰もが自分の将来について考えていく必要があります。自分の進路を自分で決定していかなければいけません。また、進路先も進学する人や就職する人など…さまざまです。これでよかったという進路選択は、実は一人ではできません。クラスや学年みんなで学習できる環境をつくっていくこと、人と人とのつながりを大切にすること。誰かに支えられていることを意識すること。そんなことも含めてみんな進路（人生）を切り拓いていきます。それぞれの卒業後の進路をしっかりと選べるように、卒業までの1年間、頑張りましょう！

中学校卒業後の進路

近年は中学生のほとんどが、中学卒業後の進路は上級学校への進学を希望しています。しかし、中学校卒業後の進路は、細かく見ていくと様々なものがあります。以下に主なものを示します。



ほとんどの人が高等学校に進みますが、入試が難しいから勉強するんじゃないくて、やりたいことや夢のために自ら学んでほしいと思います。この際ですから勉強を楽しんでほしいとも思います。どこの学校に行くということも重要ですが、自分は何をしたいか、そのためには何をすべきか、それを考え続けて進み続けることが大事だと思います。

受験生の1年

入試までの時間はみな同じです。この1年をどう過ごすかによって来年の結果は大きく違ってきます。まずは、この1年間の見通しを立てましょう。やるべきことは何か、いつまでにやるべきかをしっかり把握して、計画的な1年にするのが大切です。

4月

今、やらなあかんこと

3年生になると、クラスメイトの授業態度もがらっと変わり、進路指導の時間も増えます。この時期までに、毎日勉強する習慣を確立しておきましょう。また、地域の高校入試システムや高校に関する情報収集を始めます。

5月～夏休み前

これも、今、やっつく方が良い

進路や志望校について考えます。「何のために進学したいのか」「何が得意か」「将来どんな職業につきたいのか」「自分にとってよい高校とはどんな学校か」など、これまでを振り返りながら考えてみましょう。

また、できるだけ内申点（5段階評価）を上げておくよう努めましょう。公立入試や私立推薦入試の可否は、内申点に左右されます。最後の試合や大会の前で部活の練習も大変な時期となりますが、**しっかり中間テスト・期末テスト対策を立て、日ごろの授業にも真剣に取り組んで、内申点アップをめざしましょう。**

夏休み

夏を制する者が受験を制す、といわれる大切な時期。まとまった時間を取ることができる夏休みは苦手克服のチャンスです。課題をリストアップし、苦手克服、また、基礎学力の底上げに計画的に取り組めます。

また、この時期、多くの学校でオープンスクールや学校見学会が実施されます。少しでも気になる学校のイベントには積極的に参加しておきましょう。

9月・10月

夏が終わり、部活も引退し、教室内は受験モードに。実力テストや模試を受ける機会が多くなります。**これまでの頑張りが点数となって現れる時期です。**テストの機会を生かし、得点力のアップをめざしましょう。

11月・12月

いよいよ**志望校を絞り込み**、受験プラン（志望校と併願校の組み合わせ）を立てます。学校説明会や個別相談会にも参加しておきましょう。また、中学校で三者面談が行われ、**受験校を最終決定します。**

冬休み～1月

追い込みと受験勉強の総仕上げの時期です。問題演習に取り組んで実戦力を高めましょう。本番どおりに時間を測って過去問を解きます。また、風邪のはやる時期でもあるため、体調管理には万全の注意を払いましょう。入試に合わせて朝型の生活リズムを整えておきます。

2月初旬 私立入試 2月初旬～3月中旬 公立入試

ここで質問。このことばの意味わかりますか？

専願と併願

この意味わからん人は、懇談でちんぷんかんぷんになる。

ほとんどの高校で、**専願か併願**かを明らかにして出願することが求められます。

専願とは、合格すれば必ず入学することを約束して受験することです。**この約束は破れません。**

併願とは、合格となっても、公立高校の結果を待ってから入学するか否かを申し出る受験の仕方です。

ほとんどの場合、専願の受験生は併願より合格ラインを下げて判定する措置が取られます。この高校を第1志望とする受験生が、公立高校などの次の志望とする受験生よりも優遇して判定されます。

どんなに遅くとも私立入試の出願までには、私立専願にするのか、公立をめざして私立は併願にするのか、どちらかなのを決めておかなくてはなりません。

また、たいていの場合、専願と併願では同じ高校の同じコースでも難易度が異なります。従って、**専願なのか併願なのかによって、選ぶ受験校が変わってくる**ことになります。

私立高校の特徴

私立高校には、建学の精神に基づいて独自の教育を展開されているところが数多くあります。魅力を感じて私立高校に進学し、高校生活やその後の歩みを充実したものに行っている人たちがたくさんいます。一方で、希にではありますが、独自の教育ゆえに人によってはなじむのに時間がかかってしまうケースもあります。その高校の特色を事前によく知り理解したうえで選ぶことが大切です。

併願で受ける場合も入学する可能性のある学校です。安易に考えず、その高校のことをよく理解したうえで受験しましょう。

特待生制度

私立高校には特待生制度を設けているところがあります。学校によってさまざまですが、学力成績に基準を設けて特待生を選抜し、授業料や入学金などを軽減する制度を設けているケースが多いようです。関心のある学校がどういう特待生制度を設られているか、確かめてみましょう。

1.5 次入試

私立高校入試の結果が出たあと、公立高校入試までの間に出願、入試、合格発表が行われる入試です。行われる学校と行われない学校があります。(ほとんどありません)

2 次入試

公立高校入試の結果が出たあと、出願、入試、合格発表が行われる入試です。(ほとんどありません) 行われる学校と行われない学校があります。

入試に向けて

私立高校の入試は、基本的に当日の試験の得点で合否が判定されます。

教科の入試でしっかり得点できる力を蓄えること、入試で実力を出し切る準備をしておくこと、この二つがとても大切です。

